

平成19年度 港南区生活支援センター事業報告書

港南区生活支援センターは開所以来、利用者・家族・精神保健福祉機関等との関係づくりに取り組んできた。開所から6年経過した今、その存在は地域に少しずつ認識され始めている。

そうした中、平成18年10月1日に障害者自立支援法「以下、法という」が完全施行となり、当センターは相談支援事業と地域活動支援センターに位置づけられた。相談支援事業については、指定相談支援事業者として県より指定を受けており、地域の身近な相談窓口として、また専門相談機関としての役割も求められている。法により3障害が一元化された現在、障害者という領域に拘らず、地域の精神保健福祉の増進を目指して専門性の向上をはかり、共生社会の実現に向けて、地域住民が安心して生活できるための支援のあり方を考えていきたい。

以下、19年度の報告からみえてくる事業の評価と課題を整理し、次年度の事業展開の足掛かりとしたい。

相談支援

地域の身近な相談窓口として、福祉に関わる幅広い相談に応じ、必要な情報提供や助言を行ってきた。そして面接・電話・訪問などを通じ、利用者の生活及び社会的問題の解決に向けた支援に取り組んでいる。

<面接>

- ・ 利用者の日常生活における様々な相談(対人関係・生活など)に応じている。
- ・ 嘱託医相談は日頃センターを利用しない方や家族にも利用されており、まだ医療に結びついていない方への支援にもつながっている。
- ・ 地域の関係機関からジョブコーチを招き、就労に関する相談を行っている。相談の特徴としては、就労に向けての準備や心構えなどが多い。
- ・ 対症療法的な問題解決がほとんどであり、相談が継続しづらい。
- ・ 本人の意思を尊重しながら、潜在化しているニーズを掘り起こし、支援の必要性を見極めていきたい。

<電話>

- ・ 地域で生活する利用者に安心感を与える役割を果たしている。
- ・ 相談内容は生活や対人関係に関するものが多い。
- ・ 第一次相談機関として幅広く地域の方からの相談に応じている。今後は、より専門領域、及び複雑多岐にわたる相談に対応できるための知識と柔軟性が求められる。

<訪問・同行・その他>

- ・ 関係機関との連携により、ケースカンファレンスの参加機会が増えた。今後も連携をより強め、地域での支援体制づくりに努めていきたい。
- ・ 利用者が不特定多数であること、及び生活に関する問題の認識が不足していることから、ニーズが掴みづらい。定期的訪問はあるが、利用者への周知が十分ではないこともあり、件数は少ない。今後増やしていくことが求められる。
- ・ ひきこもりの人など社会資源につなげていない人、及び家族支援も併せてどうアプローチしていくかが今後の課題である。

地域活動支援センター

社会経験・人間関係が十分に得られなかった方が社会参加を目的とするための場の提供、及び利用者ニーズに合わせた各種プログラム・イベントを企画・実施してきた。

居場所の提供

- ・ オープンスペースを開放し、利用者が常に気持ちよく過ごせる憩いの場を提供している。利用目的は様々であるが、見守りと安心感を与えている。
- ・ 社会経験が乏しく、他者とのコミュニケーションの機会を持ちたい方にとって、社会生活適応に向けた場所となっている。
- ・ 利用者のニーズやエンパワメントを引き出すための場となる工夫が求められる。

SST（社会生活技能訓練）

- ・ 実際の体験を通し、対人コミュニケーション能力の向上を図るプログラムである。
- ・ 平成 19 年度より参加者を限定し、外部講師を招き、年間 18 回実施した。
- ・ プログラムの周知、及び参加者の増加が今後の課題である。

就労関連プログラム

- ・ 就労を通して社会参加を目指す方にとって、様々な情報や気づきが得られるプログラムとなっている。
- ・ 就労講座(年 11 回)開催。就労支援専門機関との連携を通じ、講義のほか、実際に働いている当事者や障がい者を雇用している企業の方の話、就労援助機関の見学など多岐にわたる内容となった。
- ・ 就労ミーティング(1 回 / 月)開催。参加者同士で知識・経験・体験を分かち合い、課題解決につながった。

パソコン教室

- ・ 受講者を月 2 名(2 日/月)に限定し、集中しやすい環境のもと、教室を実施してきた。
- ・ 地域ボランティアの力を活用し、初心者にもわかりやすい指導で受講者から好評を博している。

その他

<当センターの年間プログラム>

初詣、新年会、お花見、納涼会、クリスマス会、バスハイク年 2 回、利用者ミーティング、絵画教室、気功教室、ソフトボール交流、コラージュ体験教室、ランチ会・お菓子教室(3 ヶ月に 1 回) ほか季節的なイベント

- ・ 利用者の創作的活動を促進する各種プログラムを企画・実施してきた(絵画教室、コラージュ体験教室)。
- ・ 外部からもボランティアを招き、イベント・プログラムに、より多様性を持たせている(気功教室、ランチ会、お菓子教室)。
- ・ プログラム参加を通じ、他者と交流する楽しさや協力することの大切さを知る機会となっている。

サービス提供

支援センターは、地域で生活する利用者にとって生活の基本である食事・入浴・洗濯サービス等を提供している。そして、よりよい日常生活を送るための社会資源のひとつとして、適宜活用されている。

夕食サービス

- ・ 食卓を皆で囲むことにより、家庭的な雰囲気の中でコミュニケーションが図られている。
- ・ 安価な料金設定で、地域で生活する利用者の経済負担軽減に結びついている。
- ・ サービスの質・内容を向上させるために、アンケートを実施し利用者の声を採り入れたり、献立に季節感を出すなどの工夫をしている。
- ・ 職員と共に夕食サービスの調理・買い物をすることで、個人の生活スキルの向上に役立っている。

入浴サービス

- ・ 固定メンバーが定期的に利用しており、生活の一部となっている。
- ・ 入浴サービスを通じて、より多くの方に身の衛生観念を身につけてもらうことが課題である。

洗濯サービス

- ・ 数名の固定メンバーが定期的に利用しており、生活の一部となっている。

インターネットサービス

- ・ 利用は多くはないが、情報収集手段として大切な機能を果たしている。必要があれば職員が手助けをしながら、就労や各種制度に関する情報の提供を行っている。

地域交流

当センターはこれまで地域の関係機関とのネットワークによる活動や、施設の提供、開放など地域交流に努めてきた。今後、より一層交流を進めていきたい。

地域交流の実績

- ・ ボランティアグループ、関係機関への施設提供(作業所による喫茶、ボランティアによる昼食会など)
- ・ 家族会、ボランティアグループ、関係機関への活動協力と定例会参加
- ・ 他障害との交流や活動(区障連、近隣福祉施設との交流会など)
- ・ 地域ボランティアの積極的な受け入れ(パソコン、気功教室、おしゃべり、調理など)
- ・ 港南区精神保健福祉関係機関との定例会とイベントの実施(生活教室との合同バスハイク、港南ネット祭りなど)
- ・ 区内小学校との交流(学校における施設紹介、小学生の体験学習受け入れ「6回のべ78名参加」)
- ・ 地域住民との交流(区民祭りなど)

今後の課題

- ・ 当事者活動を促し、センターの役割や機能について地域にどのように理解を得ていくかが課題である。

その他

- ・ 障害者自立支援法による障害程度区分認定審査会参加
- ・ 福祉職、看護職の実習受け入れ

利用実績

	平成 18 年度	平成 19 年度
本人 来館者数	32 人 (1 日)	31 人 (1 日)
電話、面接、 面接非構造・その他	49 件 (1 日)	56 件 (1 日)
訪問・同行	21 件 (年間)	12 件 (年間)
夕食サービス	14 人 (1 日)	15 人 (1 日)

主な地域交流の実績	実施回数	参加人数
港南ネット祭り	1	197
ぽかぽか（作業所による喫茶）	21	105
区民祭り	1	97
ソフトボール交流会	6	45
生活教室との合同バスハイク	1	21
そよかぜふれあい祭り	1	15
あおぞら 5 施設交流会	1	10
区障連ふれあいスポーツ大会	1	7
区障連ふれあいボーリング大会	1	5
小学校オープンスクール参加	1	2

職務分掌

当センターは、以下 8 名の職員を配置し、施設運営を行ってきた。内、6 名（5 名は精神保健福祉士有資格者）が開所時から引き続き勤務しているということで、利用者、関係機関などに信頼と安心感を与えている。

他方、職員としての専門性向上をめざし、各種研修にも参加するよう努めてきた。今後もより一層の職務充実を目指し、全職員が広く研修に参加していきたい。

氏名	取得資格	経験年数 (*1)	担当業務
所長A (常勤嘱託)	社会福祉主事	6年	施設運営事務全般、職員勤務表作成 防災管理責任者、運営連絡会 評議員会 等
職員B (常勤)	精神保健福祉士 相談支援専門員 社会福祉士	6年	金銭出納管理、入浴・洗濯・インターネットサービス会計、 備品/リサイクル品・落し物管理、 地域ネットワーク、障害程度区分審査会、運営連絡会、
職員C (常勤)	精神保健福祉士 相談支援専門員	6年	実習生担当、統計、夕食サービス会計、夕食献立作成、 夕食サービス担当職員分担表作成、 ホームページ管理、地域ネットワーク
職員D (常勤)	精神保健福祉士 相談支援専門員	6年	統計、就労関連事業、防災管理、 備品/リサイクル品・落し物管理、地域ネットワーク、 運営連絡会
職員E (非常勤)	精神保健福祉士 社会福祉士	6年	夕食献立作成、余暇支援、衛生業務、 地域ネットワーク
職員F (非常勤)	精神保健福祉士	6年	統計、就労関連事業、衛生業務、余暇支援 ホームページ管理、地域ネットワーク
職員G (非常勤)	社会福祉主事	4年	社会生活技能訓練、その他サービス関係、衛生業務、 消耗品管理、余暇支援
職員H (アルバイト)	—	1年	リサイクル品・落し物管理、消耗品管理、 余暇支援、ホームページ管理

(* 1) 経験年数は、平成20年3月31日時点

研修

研修参加年月日	研修名	研修内容	参加者
平成 19 年 5 月 19 日	新人研修	精神保健福祉援助職(新人)としての心得を学ぶ	職員H
平成 19 年 5 月 31 日	ほっとぽっと事業報告会	旭区調査研究試行事業についてと「ピアサポートを語る」シンポジウム	職員C
平成 19 年 7 月 31 日	傾聴研修	傾聴について基本的な考え、構え等について講義・実技	職員H
平成 19 年 9 月 5 日	横浜市生活支援センター 連絡会中堅職員研修	スーパービジョンの実践に向けて	職員G
平成 19 年 10 月 4 日	横浜市生活支援センター 連絡会電話相談研修	電話相談基礎的概論 電話相談の現状と課題	職員C 職員G
平成 19 年 11 月 15 日	指定管理者を対象とした研修	個人情報保護説明会及び人権啓発研修	所長A
平成 19 年 12 月 11 日、 平成 20 年 1 月 11 日、 2 月 29 日	横浜市生活支援センター 連絡会中堅職員研修	中堅職員による新人職員の指導の仕方などについて評価・指導を受ける	職員H
平成 20 年 1 月 23 日	発達障害の基礎理解	発達障害児についての基礎理解	職員H
平成 20 年 1 月 31 日	市民精神保健福祉フォーラム	当事者体験談と神奈川病院長の講演	所長A
平成 20 年 2 月 27 日	第 2 回こころの電話相談関係機 関連絡会	電話相談で死をほのめかす方、攻撃的な方などへの対応～人格障害への対応の視点から～	職員G
平成 20 年 2 月 28 日、 3 月 5 日、3 月 13 日	平成 19 年度神奈川県障害者 相談支援従事者現任研修	「地域での相談支援活動の現状と課題」、 演習など	職員C
平成 20 年 3 月 13 日、 3 月 14 日	全国フォーラム	「つなぐ・つくる 生活支援」～どうなる？ 今こそ考える？地域に必要な相談とは？	職員B
平成 20 年 3 月 26 日	横浜市生活支援センター 連絡会事例検討会	中堅研修で出た事例について検討	職員G 職員H

自己評価

合格点に達しているものと認識しております。計画に基づく事業実施を行っておりますが、特に相談支援については施設内だけに留まらず、職員間の連携も一層密にしながら訪問、同行など地域に出向いていく体制作りに努めていきたいと考えます。

以上

平成 19 年度

港南区生活支援センター指定管理料決算書

自平成 19 年 4 月 1 日 至平成 20 年 3 月 31 日

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
人 件 費	(40,760,000)	(38,276,802)	(2,483,198)	
施設管理費	(5,649,000)	(6,015,082)	(△ 366,082)	
光熱水費	2,849,000	3,191,377	△ 342,377	ガス・電気・水道
庁舎管理	2,800,000	2,823,705	△ 23,705	
事業運営費	(3,148,000)	(3,204,286)	(△ 56,286)	
旅費交通費	14,000	140,560	△ 560	
講師謝金	18,000	174,000	6,000	
消耗品費	1,250,000	1,164,680	85,320	新聞、文具他
印刷製本費	200,000	236,819	△ 36,819	
通信費	200,000	272,674	△ 72,674	切手代、振込手数料他
電話料金	180,000	165,735	14,265	
賃借料	330,000	323,096	6,904	コピーリース料他
備品等購入費	200,000	0	200,000	
会議費	10,000	5,250	4,750	
研修費	100,000	16,280	83,720	
設備修理費	120,000	457,192	△ 337,192	
諸会費	50,000	56,000	△ 6,000	
施設賠償保険	188,000	192,000	△ 4,000	全精社協総合補償制度
入浴サービス等実費徴収額 光熱水費充当分	(△ 160,000)	(△ 140,320)	(△ 19,680)	
合 計	49,397,000	47,355,850	2,041,150	

財団法人神奈川県児童医療福祉財団